

みんなで考える 地域の営農

～「地域計画」の策定・実現を目指して～



「地域計画」とは？

地域農業を維持するために、誰が・どこの農地で・どんな作物を・どのように栽培するのか。

地域農業の将来の在り方について地域の人々で話し合い、地域の人々で作り上げていく将来計画のことです。

「京力農場プラン」が「地域計画」に変わります！

	京力農場プラン	地域計画
目的	農地を集積していく将来方針	地域農業の将来の在り方の計画
対象	中核的担い手	農業を担う者＝担い手(効率的・安定的な経営) ＋多様な経営体 ＋受託を受けて農作業を行う者
方法	農地を集積していく将来方針を文章化	農業を担う者ごとに利用する農地を地図(目標地図)に示す
取扱	地域計画が策定されるまで有効	令和7年3月までに策定(以降、随時見直し)

京力農場プランの目的は「地域農業における中核的担い手の明確化と農地集約化に係る将来方針の作成」でしたが、地域計画では「地域内の農業を担う者(全ての農業者)」について現状と10年後の経営作目と経営面積を一覧にして、農地1筆ごとに将来の利用者を明確化した「目標地図」を新たに作成することになりました。

地域計画について、詳しくは裏面へ

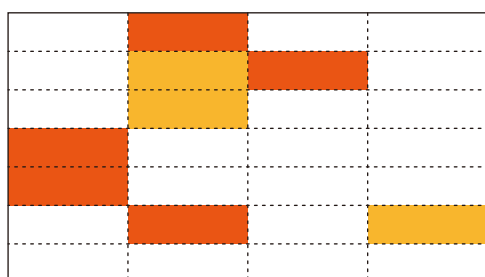
地域の農業では、高齢化や人口減少により農業者の減少や荒廃農地が拡大し
農地が適切に利用されなくなることが課題とされています。

京都府では、みなさんと一緒に関係機関(市町村・農業委員会・農地バンク・JA・土地改良区 など)と
協力し課題解決に向けた「地域計画の策定とその実行」の推進に取り組んでいます。
地域の農業の明るい未来を目指して、地域計画をみんなで話し合いましょう。

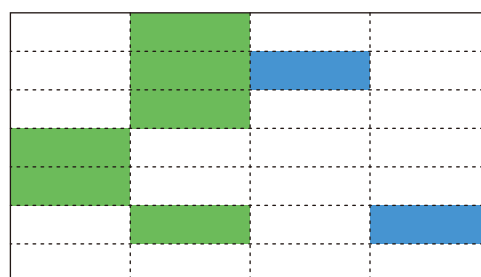
地域計画は「地域営農の未来予想図」

地域計画は、地域の農業者等の話し合いに基づき、「地域農業の将来の在り方」をまとめた「計画書(本体)」と農地1筆ごとに将来の利用者を明確化した「目標地図」をセットで合意決定し、市町村が公表するものです。
「目標地図」は農業者や地域のみなさんの話し合いにより策定されます。おおむね10年後を見据え、担い手・農地所有者・地域住民などを交えて話し合うことが重要です。10年後の目標が難しい場合は、まずは1～2年後の未来に向けて「目標地図」を作ってみましょう。

例えば・・・ 話し合いの中で明確になった後継者のいない農地を活用して、新たな品目の作付けに取り組む。



現在、預かってほしい農地
5年後、後継者のいない農地



新たな品目の集団栽培にチャレンジ
担い手に預ける

地域のことを、地域のみなで考えてみよう!

話し合いには今後、地域で営農または生活していく後継者などの若い方や女性の参加が大切です。

ぜひ、職業や年齢・性別などの垣根を超えて話し合ってみてください。

担い手がいない地域では、地域計画にその旨を記載し、地域外から新たに農業を担う人を呼び込むために活用しましょう。



**「地域計画」を策定すると、国や京都府の支援策も使いやすくなり
目指したい地域の農業の実現に役立つ手段が広がります!**

みなさんの地域でも「地域計画について話し合いたい」とお考えの際には
お住まいの市町村・お近くの農業委員さん・農地利用最適化推進委員さんへご相談ください。

